

新しい公共支援事業の成果等報告
(業務を受託した中間支援組織等分)

1. 成果等報告

受託業務名	[提案方式導入]新しい公共を支える資源循環の基盤づくり事業
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 活動基盤整備支援 <input type="checkbox"/> 寄附募集支援 <input type="checkbox"/> 融資円滑化支援 <input type="checkbox"/> 利子補給 <input type="checkbox"/> その他 (複数回答可)
受託者名	特定非営利活動法人なばり NPO センター
実施期間	平成23年度：平成23年10月1日～平成24年3月31日 平成24年度：平成24年4月1日～平成25年3月29日
受託金額	平成23年度決算額：3,500,000円 平成24年度決算額：6,500,000円
事業概要	※概要がわかるように100字～150字程度で簡潔にまとめてください。 NPOや市民のために、NPOの活動や寄付税制についての講座やイベントを開く。それらを通じて、NPOの寄付の獲得、NPOや中間支援組織の認識化の促進、多様な主体との協働などを目指し、事業規模を拡大していく。
受託内容	※内容とともに、支援のアウトプット(具体的な実施事項、数量、期間等)について記載してください。 平成23年度 ①新しい時代のNPO講座(全4回・11/13・11/19・12/11・1/15) ③寄附つきイベント野外防災交流集会(全1回・3/25) ④ワールドカフェ(全1回・2/5) 平成24年度 ①緊急講座NPO法改正税制改正に対応する勉強会(全4回・7/20・7/31・8/1・8/3) ②寄附つきイベント野外災害体験講座(全2回・9/9・3/20) ③行政とのつきあい方講座(全3回・9/12・9/19・9/26) ④FMなばり放送(全12回・10/1～3/25、交流会3/13) ⑤行政職員のための講座(全3回・10/1・11/27・2/21) ⑥伊賀社協共催事業(全2回・10/18・1/27) ⑦企業人鼎談(全1回・2/9) ⑧ワールドカフェ2013(全1回・3/10)
成果の達成状況	[達成目標] ■平成23年度に達成しようとする成果 ①講座各種5種実施 ・ NPOの会計や法改正、寄附の集め方などに関する講座を開催しました。また、寄付付きイベントとして野外防災交流会を開催。ワールドカフェも開催しました。 ②FM放送実施 ・ 放送期間：10月～12月毎週金曜18:00～と土曜13:00～の放送

- ・ 内容：なばりNPOセンター理事長とFMなばりアナウンサーとの対談方式で、初級のNPO講座を4講座8回の放送を行い、NPOの啓発活動に取り組みました。

③寄付システムの完成

- ・ 寄付システムとは、『ファンドの形成』というニュアンスで最初は取り組もうとしましたが、名張・伊賀全体を見てNPOの力量やそれを支える企業や行政の動きを考えて、今回は断念することを決めました。
- ・ 一時的な『ファンド化』ができて、それを維持発展させるためには、そのことを中心に活動しなければ維持できないくらいに大変なことで、しかも、その金額が100万円前後を集めたとしても、その果実である利息で運営できるような状況でもなく、市民活動を支えるための仕組みには今のところなり得ないということです。
- ・ 例えば、介護保険法で事業に取り組んでる事業体に、各団体の年間事業利益の1%を寄付してもらおうということで、年間400万円位集まる試算があります。そのお金で、専属の職員を雇用して、『介護保険法外』事業（後見人制度の普及啓発など）に取り組めるような仕組みが、私たちの思う『継続的仕組み』と考えていますが、一見進められそうですが、実際には多くの困難があるので、実現は簡単ではありません。
- ・ 仕組み作りとは 困難でそう簡単に取り組んでできるようなものではないことをこの間の取り組みの過程で勉強することができました。

■平成24年度に達成しようとする成果

①名張地区以外の講座を何とか予定通り実施する

- ・ 当初、地区毎に同様の講座を開催する予定でしたが、集客が見込めないことなどから伊賀市と名張市の両市合同で交代に講座の開催を行いました。その結果、どちらにもそれぞれの市から参加がありました。

②企業との協働を実現

- ・ 2/9「鼎談伊賀の企業人が吠える」と題し、伊賀地域で活躍されている企業人3人のCSRやまちづくりなどに対する思いや考えを聞く機会として講座を開催しました。
- ・ 2/3「千石先生のいのちはみんなつながっている上映会」において、協働とまでいえないかもしれませんが、地元の商店さんなどが店内にポスターやチラシを置いてくれるなど、広報活動にご協力をいただきました。

③寄付収入100万実現

- ・ 前期は「エコリゾート赤目の森」と縁のある企業や個人からの寄付が集まりました。後期はなかなか獲得は難しくなりましたが、講座などで募金箱を設置し、少しずつですが寄付を集めることができました。寄付収入100万円の実現にはいたりませんでした。

■ 成果指標の達成状況 および事業の効果

1. 緊急講座法改正に伴う勉強会の開催を、伊賀市と名張市交替で実施しました。当初は細かい地域分けで同じ内容のものを行っていく予定でしたが、

集客の見込めなさなどから、両市まとめてやるという風に方向転換しました。その結果、伊賀市で5回、名張市で8回（行政職員講座含む）行いました。それぞれに名張伊賀の両市からの参加者がいました（行政職員講座除く）。

2. FMなばり「NPOの風 part2」において。早朝7:29~7:39の放送でした。この時間帯は、近隣の工場勤務の方の出勤時間と重なり、車の中などで聴いてもらえる機会が多かったようです。出演いただいた方からも「聞いたよ」という反応があったと聞いています。この放送によって、伊賀地区でどんな団体さんが活動しているか、知ってもらいました、興味を持ってもらう機会となったと思います。また、後日出演者による交流会を行いました。みなさんそれぞれの活動が忙しく、あまり人数は集まりませんでした。それでも初顔合わせという方がほとんどでした。このことから、地域内において、NPOや市民活動をされている方々の交流が少ないことがわかり、もっと交流を深めていかなければならないと感じました。
3. 行政職員のための講座において→名張市との共催で実施しました。名張市役所の職員が各部署から数名、公務として参加しました。すでにNPOと協働を始めている部署の方もいれば、まったく無関係で「NPOってそもそも何の略ですか？」といった質問が出るような方もいました。この講座を受けることによって、今は協働の必要性について、何も思わなくても「いずれは必要なのだろうか・・・」といった意識づけができたのではないのでしょうか。NPOという組織の在り方や、ミッション性などについて触れてもらい、色々考えてもらう機会となったと思います。
4. 千石先生の映画上映会において→伊賀地区で自然活動などをされている方を中心に有志が集まり、実行委員会を結成しました。なばりNPOセンターでは実行委員会と共催という形を取り、事務的作業を引き受け事業に挑みました。実行委員会のメンバーが数回集まり、当日のスケジュールなどについて話しあいを行いました。結果、できあがった内容は時間的には短いものでしたが、中味の詰まった内容だったと、参加者からたくさんの評価をいただきました。また、メンバーひとりひとりが、たくさんの人々に声をかけてくれたり、商店をまわってポスターの掲示をお願いしてくれたり、幅広い広報活動がなされました。一人や二人では到底なし得ない効果があり、またみんなで集まって何かをやりたいという意見も出ているほどです。アンケート用紙には、お手伝いいただける方やまた参加したい方はお名前を・・・という欄を作っていたのですが、回収数62枚に対し、20名ほどの方が名前を書いてくださいました。ここからまた広げていくチャンスになると思います。
5. 野外災害体験講座はこの期間に夏と冬の2回開催しました。夏はアルミ缶2個を加工して牛乳パックを燃料にご飯を炊きました。冬は100円均一で購入できる空き缶を使い、ロケットコンロを作成しました。「エコリゾート赤目の森」で作っている木質ペレットを燃料にしてご飯を炊きました。初対面の親同士も子ども同士も協力しあって作業を行っていました。自助共

助などを考える良い機会になったと思います。

6. ワールドカフェにおいて。今回、参加者が少なく、様々な意見が聞けるのか不安なところもありました。ですが、テーブル配置なども余裕があり、ゆったりとした空間でひとりひとりの意見をじっくり聞くことができました。参加者同士の交流もより親密となり、実際、新しいネットワークを構築できた、といった意見も出ています。
7. 様々な主体との協働として、伊賀社協とは2回に渡り講座の開催を行いました。協働をしていくにあたり、相互理解と綿密な意思疎通が重要だと再認識しました。相互理解という点においては、主軸となった伊賀社協の乾氏と伊井野が古くからの付き合いもあることから問題はなかったと思います。ですが、意思疎通という面において事務サイドで少し隔たりがあり、反省すべき点となりました。事業自体は、現在とこれからの地域福祉について、どうしていかなければならないか。多くの方々に考えてもらえる機会となったといえます。現在は、買い物弱者に対して“お買いものバス”の必要性が顕著ですが、10年後もそうなのか、インターネットの普及などから、また別のニーズが生まれてくるのではないかなどそういった先まで見通す意見などもみられました。

※ 達成に向けて行った工夫 または未達成の原因及び講じた対応策を記載してください。

平成23年度の成果物	平成24年度の成果物
添付 <input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	添付 <input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし
① 各講座で使用したレジュメ等 (URL)	② 各講座で使用したレジュメ等 (URL)
	③ 会報5号・6号

※成果物がインターネットで公開されている場合は当該ウェブページのURLを記載してください。但し、公開されている場合であっても現物の提出をお願いします。

※番号は平成23年度から順に記載していただき、適宜増減してください。

得られた成果
及び自己評価

※支援の効果、今後の展望等のアウトカムとともに、自己評価を記載してください。

1. 平成23年度のワールドカフェでは前回以上の参加があり、「プラットフォーム」的な場を求めている市民がいることは確認できました。実際、平成24年度においては新しいネットワークを構築されていた方や、地域の方がどういった考えを持っているのか知りたくて参加したという声があがりました。このことをふまえて今後どのような支援が必要なのか引き続き検討していく必要があると考えています。
2. NPO法改定・NPO税制改正や寄附講座など、平成24年の10月までに数回開催しましたが、予想外に関心が無いことに唖然としました。NPO関係者も、寄付金獲得講座等にはとても関心があると思っていたのですが、参加者はあまりありませんでした。(10名まで)。ぎりぎりになって法改正のことで質問がくるなどし

	<p>たことなどから、ただチラシを送付するよりはもう少しつっこんだ内容を簡潔にした紙ベースのものも送って「関係ないからいいや」じゃなく「関係あるかもしれないから聞きに行ってみよう」という意識づけも必要なのかもしれませんが。</p> <p>3. 広報活動について→広報期間、準備期間の見直しと広報方法の再検討が必要と思われま。委員の聞き取りにもあったことですが、電話での広報も行いました。ですが、電話番号がわかった団体さんにおいて半数近くは通じないことが多く、通じるところは「忙しいから行けない」「うちは関係ない」という返事でした。都度、訪問して参加の呼びかけを・・・という意見もあり、実行も考えましたが、電話も通じない所には訪問しても留守であることが予測されます。受け身態勢であることは、反省すべき点ではありますが、どこまでつっこんで行けばいいのかもまた、難しいところだと思います。また、広報・準備期間が比較的長く取れた「千石先生」の事業においては、多くの人の協力もありこちらが想定していた以上の集客がありました。野外体験において、チラシの配布数は4,500枚に対し、参加数は1回目が20組、2回目は6組、確実に手元にチラシが渡っていてもこの確率。ということを考えても何か手立てを再検討しなければいけないと考えています。</p> <p>4. 地域住民の関心は”防災・災害対策””地域福祉”といったものがより高いようです。個人情報の保護という観点ばかりが発展してきた現代において、やはり地域住民同士の繋がりや助け合うことが大事だと改めて感じられた方も多かったです。</p>
評価リンク	<p><input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった (該当する評価に☑を付けてください。)</p>

2. その他参考となる資料の添付 あり ・ なし

(添付資料がインターネットで公開されている場合は当該ウェブページの URL を記載してください。但し、公開されている場合であっても現物の提出をお願いします。)

資料名： 各講座の案内ちらし等 (URL)

※行は適宜付け足して記入してください。